

授業科目 (科目ID)	作業療法評価法Ⅲ		担当教員	池田 保		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	通年科目である作業療法評価法Ⅱと連携して、身体障害領域における基本的検査手技を習得する。運動器系の状態把握に必須の徒手筋力検査を中心に学ぶ。					
到達目標	筋力とは何か、筋力低下が引き起こす状態、徒手筋力検査法の知識をもち、検査の実施が可能となる					
テキスト・参考図書等	新・徒手筋力検査法 原著第9版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験 実技試験			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	運動機能を理解する上で筋力検査は重要な位置を占めています。筋名、作用、神経支配、代償動作を含めて確実に実践できるようにしてください。机上の学習だけでは技術は身に付きません。繰り返しの練習が何よりも重要です。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション、筋力	この科目の内容説明と 筋力低下が引き起こす問題、筋力検査の意味			
	2	徒手筋力検査(MMT)、基本項目の確認	MMTに関する基本事項の確認			
	3	MMT実技確認	1年次に実施した手技の確認(上肢)			
	4	MMT実技確認	1年次に実施した手技の確認(下肢)			
	5	MMT実技(上肢)	上肢のMMT実技			
	6	MMT実技(上肢)	上肢のMMT実技			
	7	MMT実技(上肢)	上肢のMMT実技			
	8	MMT実技(上肢)	上肢のMMT実技			
	9	MMT実技(下肢)	下肢のMMT実技			
	10	MMT実技(下肢)	下肢のMMT実技			
	11	MMT実技(下肢)	下肢のMMT実技			
	12	MMT実技(下肢)	下肢のMMT実技			
	13	MMT実技(頭部・体幹)	頭部・体幹のMMT実技			
	14	MMT実技(頭部・体幹)	頭部・体幹のMMT実技			
15	MMT実技(頭部・体幹)	頭部・体幹のMMT実技				



授業科目 (科目ID)	作業療法評価法実習 I		担当教員	山田 里見		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	道内病院にて作業療法士としての勤務経験
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義、演習		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	身体障害及び発達障害における評価方法について具体的な評価法を用いるものと観察から評価していくものをそれぞれ学び、評価についての理解をより深めていく。また、評価しようとしているものが何なのか、その評価結果が何を表すのかを理解する。					
到達目標	各評価方法の目的、その結果が示す意味を答えられるようになる。正しい評価の実施が可能となる。					
テキスト・参考図書等	脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編]、標準作業療法学 作業療法評価学 第3版、病気がみえるvol.7 脳・神経、作業療法学ゴールドマスター高次脳機能障害作業療法学 改定第2版。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	実際に臨床で用いられている評価方法を学びます。何のために行い、その評価で何がわかるのかという評価の目的・位置づけが非常に重要です。学習内容が多岐にわたり、量的にも多いので予習復習が必須です。また配布資料も多いので資料の整理も不可欠でしょう。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション、評価と検査について	この講義の進め方と評価についての確認			
	2	活動領域の評価(姿勢・動作の観察)	姿勢・動作観察と分析の方法、記載方法を習得する			
	3	活動領域の評価(姿勢・動作の観察)	姿勢・動作観察と分析の方法、記載方法を習得する			
	4	活動領域の評価(姿勢・動作の観察)	姿勢・動作観察と分析の方法、記載方法を習得する			
	5	活動領域の評価(ADL、IADL評価)	ADL評価の基本を理解する。観察と点数化のメリットデメリットを知る 各種ADL評価法(スコア)、BarthelIndexとFIMを特徴を知る			
	6	活動領域の評価(ADL、IADL評価)	FIMの採点方法を理解する			
	7	活動領域の評価(ADL評価の実践)	模擬対象者に対するADL評価の実践			
	8	活動領域の評価(ADL評価の実践)	模擬対象者に対するADL評価の実践			
	9	上肢・手指機能評価	上肢機能の基礎を理解する 各種上肢機能評価			
	10	上肢・手指機能評価	握力、ピンチ力、STEF			
	11	上肢・手指機能評価	STEF実習			
	12	高次脳機能評価	脳の機能局在と高次脳機能、高次脳機能評価の基礎			
	13	高次脳機能評価	意識、注意機能の評価			
	14	高次脳機能評価	半側空間無視と各種認知機能			
15	高次脳機能評価	行為機能の評価				

履修主題・履修内容	16	高次脳機能評価	遂行機能の評価
	17	発達障がい領域の評価①	小児知能評価(WISC-IV 他)
	18	発達障がい領域の評価①	小児知能評価(WISC-IV 他)
	19	発達障がい領域の評価②	感覚統合検査(JMAP 他)
	20	発達障がい領域の評価②	感覚統合検査(JMAP 他)
	21	発達障がい領域の評価③	発達検査(遠城寺・Denver II 他)
	22	発達障がい領域の評価③	発達検査(遠城寺・Denver II 他)
	23	ブレ実習	臨床場面における身体障がい領域の評価体験



授業科目 (科目ID)	作業療法評価法実習Ⅱ		担当教員  (実務経験)	小熊 真喜子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	・対象者理解にむけての精神・心理領域の評価手法について学び、評価についての理解を深める。				
到達目標	・対象者理解にむけての評価手法について学び、評価についての理解を深める。・特に精神分野作業療法の中で利用される評価法を列挙できる。・対象者を評価していく上での視点をつかみ、具体的な評価技術を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	山根寛:精神障害と作業療法(第3版) 三輪書店 吉川ひろみ:COPM・AMPSスターティングガイド 三輪書店 岩崎テル子他編:標準作業療法学 作業療法評価学(第2版). 医学書院. 石川齊・古川宏編:図解 作業療法技術ガイド. 文光堂				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験(80%) 提出物(今日のまとめ・症状のまとめ)による点数(10%) 小テスト(5%) 面接実技試験提出物(5%)		
	レポート	%			
	小テスト(単元テスト)	5%			
	提出物	10%			
	その他	5%			
履修上の 留意事項	実習を充実させるためにも教科書を使った予習・復習を勧める。単元テスト・実技テスト場面を利用してスキルを高めること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業オリエンテーション・実習日誌の流れ		
	2	記録と報告・間接的情報収集	プレ実習オリエンテーション・記録と報告の方法 文書・他部門からの情報収集		
	3	記録と報告・間接的情報収集	プレ実習オリエンテーション・記録と報告の方法 文書・他部門からの情報収集		
	4	観察(1)	場面の観察・対象者の観察(第一印象を中心に)、観察場面の文章化・報告方法		
	5	観察(2)	場面の観察・対象者の観察(第一印象を中心に)、観察場面の文章化・報告方法		
	6	面接(1)	インタビュー面接・説明と同意、情報収集面接 COPM ナラティブな語りを聴く(1)		
	7	面接(2)	インタビュー面接・説明と同意、情報収集面接 COPM ナラティブな語りを聴く(2)		
	8	作業観察・作業面接(1)	構成的作業分析と投影的作業分析		
	9	まとめ(1)	面接実技試験、面接実技試験に対するフィードバック		
	10	まとめ(1)	面接実技試験、面接実技試験に対するフィードバック		
	11	まとめ(1)	面接実技試験、面接実技試験に対するフィードバック		
	12	心身機能(1)	心身機能の種類・心身機能を把握する評価手段、心身機能の種類・心身機能を把握する評価手段不安・抑うつ検査		
	13	心身機能(2)	精神症状の種類と分類(1)		
	14	心身機能(3)	精神症状の種類と分類(2)		
15	まとめ(2) 活動と参加(1)	精神症状単元テスト ADL・APDL・作業遂行能力の評価			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	活動と参加(2)	RehabとLASMI 職業能力の評価
	17	活動と参加(3)	集団適応技能と集団評価
	18	活動と参加(4)	集団適応技能と集団評価
	19	環境因子	環境因子の評価手段
	20	個人因子(1)	性格・興味関心・QOL・価値・自己認識の評価、興味関心チェックリスト・役割チェックリスト
	21	個人因子(2)	性格・興味関心・QOL・価値・自己認識の評価、興味関心チェックリスト・役割チェックリスト
	22	まとめ(3)	プレ実習①、:1・2年合同授業 前期の振り返りと後期の目標
	23	まとめ(4)	プレ実習②、:当事者との面接体験





授業科目 (科目ID)	身体障害作業治療学Ⅱ		担当教員	山田 里見	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	道内病院にて作業療法士として6年勤務
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分		単位数 3単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	45	時間数 90時間
授業目的	脳血管障害をはじめ、作業療法の臨床現場で関わる機会が多い身体障がい領域の疾患・障害について、作業療法士の視点から障害理解を深め、対象者の生活面への影響を含めて捉えることを目標とする。				
到達目標	身体障がい領域の疾患・障害について、知識を有することになる。				
テキスト・参考図書等	病気がみえる脳と神経(第2版)、図解作業療法技術ガイド(第4版)、作業療法学ゴールドマスターテキスト:高次脳機能障害作業療法学(第3版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	中間試験、定期試験(前期・後期)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	身体障がい分野の作業療法で主要な疾患・障がいである脳卒中片麻痺を中心に、運動失調症、パーキンソン病、整形疾患、廃用症候群等を学びます。非常に重要な内容です。臨床のイメージをできるだけもてるような授業展開を心掛けますが、学習者である皆さんからも積極的な質問、参加を期待します！				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	脳血管障害①	脳画像のみかた		
	2	脳血管障害①	脳画像のみかた		
	3	脳血管障害①	発症部位別主症状、脳の可塑性、運動と感覚について		
	4	脳血管障害①	運動の異常について、片麻痺の回復について(ブルンストロームステージ)		
	5	脳血管障害①	片麻痺の回復について、ブルンストロームステージ		
	6	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴(背臥位、座位)		
	7	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴(寝返り)		
	8	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴(起き上がり)		
	9	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴(立上がり)		
	10	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴 まとめ		
	11	脳血管障害①	高次脳機能障害について(注意・USN・認知機能)		
	12	脳血管障害①	〃		
	13	脳血管障害①	高次脳機能障害について(行為障害・遂行機能障害)		
	14	脳血管障害①	〃		
15	脳血管障害①	高次脳機能障害について(失語症)			

履修主題・履修内容	16	パーキンソン病	パーキンソン病、パーキンソニズムの疾患および症状理解を深める
	17	パーキンソン病	〃
	18	パーキンソン病	パーキンソン病、パーキンソニズムの作業療法アプローチ
	19	パーキンソン病	〃
	20	運動失調症	運動失調症を引き起こす各種疾患とその症状理解を深める(脊髄小脳変性症)
	21	運動失調症	〃
	22	神経難病	筋萎縮性側索硬化症について疾患および症状の理解を深める
	23	神経難病	多発性硬化症について疾患および症状の理解を深める
	24	神経難病	ギランバレー症候群について疾患および症状の理解を深める
	25	神経難病	〃
	26	廃用症候群	廃用症候群について(概要と評価)
	27	廃用症候群	廃用症候群について(作業療法アプローチ)
	28	関節リウマチ	関節リウマチ(疾患概要)
	29	関節リウマチ	関節リウマチ(変形について)
	30	関節リウマチ	関節リウマチ(作業療法アプローチ)
	31	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識(姿勢保持障害の分析)
	32	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識( 〃 )
	33	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識(上肢機能の分析)
	34	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識(肩の痛みの分析)
	35	脳血管障害③	脳血管障害①内容を踏まえて、より臨床場面に即した症状理解を図る
	36	脳血管障害③	脳血管障害①内容を踏まえて、より臨床場面に即した症状理解を図る
	37	整形疾患	骨折(総論:概要)
	38	整形疾患	骨折(各論①:上腕骨幹部骨折)
	39	整形疾患	骨折(各論②:橈骨遠位端骨折、大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折)
	40	整形疾患	末梢神経損傷の作業療法
	41	整形疾患	腱損傷の作業療法
	42	脊髄損傷	脊髄損傷の疾患および症状理解を深める(解剖・生理学的基礎知識の復習)
	43	脊髄損傷	脊髄損傷の概要、分類(ASIA、ザンコリー、フランケル)
	44	脊髄損傷	脊髄損傷の神経学的評価(高位診断・横位診断)
	45	脊髄損傷	脊髄損傷の臨床症状、機能的予後

授業科目 (科目ID)	身体障害作業治療学Ⅱ	担当教員  (実務経験)	和田 英峰  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として8年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	池田 保
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院、介護保険施設にて10年勤務
		担当教員  (実務経験)	外部講師  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	精神障害作業治療学Ⅱ		担当教員  (実務経験)	小熊 真喜子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	①対象疾患別、回復期別の作業療法の基本的事項を説明できる。②作業療法の具体的な援助方法について説明できるようになる。				
到達目標	各精神疾患の理解と作業療法における視点を知る。				
テキスト・ 参考図書等	・精神障害と作業療法 第3版、・作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(改訂第2版)、・標準理学療法・作業療法学 精神医学 第3版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	前期・後期定期試験を実施する。授業中の提出課題は後期期末テストにおける基礎点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	個々の疾患特性とともに作業療法における援助の基本を学ぶ。整理しつつ勉強していくこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業オリエンテーション、精神OT I の復習・精神科作業療法の評価		
	2	評価概論	評価とは、評価の手段、項目、流れ、観察と面接		
	3	評価概論	評価とは、評価の手段、項目、流れ、観察と面接		
	4	精神科分野における医療・保健・福祉・就労分野の作業療法	精神科医療、保健、福祉、就労分野におけるOTの役割と評価		
	5	精神科分野における医療・保健・福祉・就労分野の作業療法	精神科医療、保健、福祉、就労分野におけるOTの役割と評価		
	6	精神科分野における医療・保健・福祉・就労分野の作業療法	精神科医療、保健、福祉、就労分野におけるOTの役割と評価		
	7	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習		
	8	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習		
	9	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習		
	10	気分障害	気分障害(うつ)の疾患論、気分障害(躁)の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習		
	11	気分障害	気分障害(うつ)の疾患論、気分障害(躁)の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習		
	12	気分障害	気分障害(うつ)の疾患論、気分障害(躁)の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習		
	13	気分障害	気分障害(うつ)の疾患論、気分障害(躁)の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習		
	14	てんかん	てんかんの疾患特性と作業療法の基本的流れ		
15	知的障害	知的障害の特性と作業療法の基本的流れ			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	知的障害	知的障害の特性と作業療法の基本的流れ
	17	自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムの概要と作業療法
	18	神経症性障害	神経症の概要と作業療法
	19	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習
	20	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の疾患特性、パーソナリティ障害に対する作業療法
	21	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の疾患特性、パーソナリティ障害に対する作業療法
	22	アルコール使用障害・アディクション	アルコール使用障害の症状と回復過程、アルコール使用障害・アディクションに対する作業療法
	23	アルコール使用障害・アディクション	アルコール使用障害の症状と回復過程、アルコール使用障害・アディクションに対する作業療法
	24	アルコール使用障害・アディクション	アルコール使用障害に対する作業療法の実際、家族会活動
	25	当事者の生活を聴く	当事者による障害体験、当事者活動について
	26	当事者の生活を聴く	当事者による障害体験、当事者活動について
	27	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者
	28	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者
29	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者	
30	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者	

授業科目 (科目ID)	精神障害作業治療学Ⅱ	担当教員  (実務経験)	柿崎 貴浩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	工藤 洋平
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科病院にて作業療法士として12年以上勤務。
		担当教員  (実務経験)	河野 仁志  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科病院に6年勤務。国立大学にて精神障害作業療法学等を24年間に渡り担当
		担当教員  (実務経験)	服部 篤隆  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科デイケアに10年・就労継続支援事業所にて7年精神保健福祉士として勤務
		担当教員  (実務経験)	杉本 千晴  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科病院、デイケアにて作業療法士として15年以上勤務
		担当教員  (実務経験)	佐藤 和正  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科病院・医療施設にて作業療法士として12年以上勤務
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	発達障害作業治療学Ⅱ		担当教員  (実務経験)	目黒 文彦  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として14年勤務	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	作業療法士が関わる発達障がい、疾患別の特徴やアプローチについて学ぶ。発達作業療法Ⅰで学んだ正常発達から実際にさまざまな年齢の正常児との関わりから観察したことをレポートにまとめる。				
到達目標	脳性麻痺、学習症、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、二分脊椎、筋ジストロフィー症について、その障害特性、評価について説明できる また、治療概念について基礎的な知識をもつ				
テキスト・ 参考図書等	発達作業療法治療学Ⅰで使用したものを扱う、脳性麻痺 第2版、感覚統合Q&A				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験 評価は定期試験にて行うが、正常発達児実習後のレポートを課す。提出期限厳守での提出を求める。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	1年次に学んだ正常発達の理解を元に、作業療法士が関わる事多い発達障がいに関する特徴、その評価や治療についての知識、理解を深めます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・発達障害領域の作業療法各論について	正常発達の講義を受け、発達障害領域の作業療法士の役割とその意義		
	2	脳性麻痺	脳性麻痺について(特徴、評価、治療)①		
	3	脳性麻痺	脳性麻痺について(特徴、評価、治療)②		
	4	脳性麻痺	脳性麻痺について(特徴、評価、治療)③		
	5	脳性麻痺	脳性麻痺について(特徴、評価、治療)④		
	6	脳性麻痺	脳性麻痺について(特徴、評価、治療)⑤		
	7	脳性麻痺	脳性麻痺について(特徴、評価、治療)⑥		
	8	正常児実習	保育園で実習(正常児について体験する)		
	9	正常児実習	保育園で実習(正常児について体験する)		
	10	学習症	学習症について(特徴、評価、治療) 感覚統合・学習症について(特徴、評価、治療)		
	11	自閉スペクトラム症	自閉スペクトラム症について(特徴、評価、治療)		
	12	注意欠如多動症(ADHD)	注意欠如多動症について(特徴、評価、治療)		
	13	二分脊椎	二分脊椎について(特徴、評価、治療)		
	14	筋ジストロフィー(DMDを中心に)	筋ジストロフィーについて(特徴、評価、治療)①		
15	筋ジストロフィー(DMDを中心に)	筋ジストロフィーについて(特徴、評価、治療)②			





授業科目 (科目ID)	老年期作業治療学		担当教員	水尻 恵利加		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	高齢者のおかれている現代社会の状況や身体・精神機能の特徴を知り、老年期における作業療法の役割を理解する。					
到達目標	①高齢者の特徴を捉えることができる。②高齢者を取り巻く、さまざまな問題を把握することができる。③高齢者を対象とした作業療法サービスについて説明ができる。					
テキスト・参考図書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	高齢者のおかれている現代社会の状況や身体・精神機能の特徴を知り、老年期における作業療法の役割を理解すること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	OTが老年期を学ぶ意味 歳を重ねること			
	2	高齢者の身体機能・精神機能	高齢者の生理的変化を理解する。			
	3	高齢者の心理的問題と発達課題	高齢者がもつ心理的問題と発達課題を知る。			
	4	高齢者の障害の特徴	高齢者に多く見られる障害や症状を知る。			
	5	高齢者の障害の特徴	高齢者に多く見られる障害や症状を知る。			
	6	高齢者の障害の特徴	高齢者に多く見られる障害や症状を知る。			
	7	評価法	高齢対象者に用いられる評価方法を知る。			
	8	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。			
	9	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。			
	10	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。			
	11	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。			
	12	高齢者に関する社会制度	医療費問題と介護保険、介護保険サービスの概略			
	13	参加領域への関わり	参加領域への関わりを老年期と関連付けて考える			
	14	高齢対象者へのOTアプローチ①②	具体的事例を通してOTアプローチに触れる①②			
15	高齢対象者へのOTアプローチ①②	具体的事例を通してOTアプローチに触れる①②				



授業科目 (科目ID)	作業療法演習 I		担当教員  (実務経験)	水尻 恵利伽  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	解剖学・生理学・運動学を復習し、症状・障害や作業療法と結びつけることができる。将来の国家試験や臨床実習に向けた基礎学力の構築を目指す。					
到達目標	1年次に学習した解剖学、生理学、運動学について復習し、適切に説明・選択することができる。評価学や疾患学と関連性の高い項目についての知識・理解を確実なものとする。					
テキスト・参考図書等	基礎運動学 第6版 補訂、カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで、筋学ハンドブック、標準理学療法学作業療法学専門基礎分野、生理学(第5版)、病気がみえる脳と神経vol.7(第2版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	専門基礎分野は単なる試験のための知識だけでなく、評価学や治療学に結び付き、臨床実習において対象者を理解するうえでも必須のものがある。積み残しを解消するよう心がけること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	2	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	3	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	4	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	5	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	6	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	7	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	8	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。			
	9	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。			
	10	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。			
	11	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。			
	12	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。			
	13	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。			
	14	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。			
15	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。				

授業科目 (科目ID)	臨床実習 I		担当教員	水尻 恵利伽		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		68	時間数	135時間
授業目的	学内で修得した知識・技術、および臨床見学実習において学んだことを臨床実習指導者の指導の下、応用・活用する。症例を通じて初期評価、目標設定までの過程を体験する。					
到達目標	臨床実習指導者の指導の下、対象者との適切な関係を築きながら、対象者の状態に合わせた情報収集、評価、全体像の把握、作業療法目標設定ができる。					
テキスト・参考図書等	特に指定はないが、対象者の症状、状態、関わりの段階に合わせて1～2年次に使用してきた教科書や授業資料を活用する。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	実習出席状況、実習日誌・症例報告サマリーシート、ケースノートなどの提出物および臨床教育者が作成する学生評価表、実習終了後の実習セミナーでの発表内容および参加状況により総合的に判定する。 ①臨床教育者が実習期間の学生の状況を評価した学生評価表の結果を4割と換算 ②学校でのセミナー等での成績を6割と換算 上記をあわせて6割以上の成績にて臨床実習 I の単位取得とする。ただし、実習期間での学生評価の項目にてD以下の判定が6個以上(全体の25%以上)の場合は不合格と判断される。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	100%					
履修上の留意事項	十分な準備を行ってから実習に臨んでください。ご協力いただく対象者様の気持ちを考え、感謝の念を持って実習を行ってください。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
		実習前セミナー	評価実習に必要な知識・技術の再確認と演習			
	1	実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接患者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。			
	2-67	臨床実習(評価)	臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導の下、実習を行う ①症例の全体像を把握するための評価計画を立案する			
			②実際の症例を通じて情報収集と評価を実施する			
			③得られたデータを整理、分析し症例の全体像をまとめる、問題点を抽出し、(治療目標を設定する)			
	68	実習後評価	実習における教育成果の判定にはサマリー発表の内容や提出物について確認し、実習指導者評価と教員評価とを合わせて総合的に判定する。			
		実習後セミナー	実習での体験、得られた知識・技術等の総括を、発表会を通して行う			

授業科目 (科目ID)	臨床実習 I	担当教員  (実務経験)	柿崎 貴浩  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年作業療法士として勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	目黒 文彦
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として14年勤務
		担当教員	和田 英峰
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員	山田 里見
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員	池田 保
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員	小熊 真喜子
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	日常生活活動実習(OT)	担当教員  (実務経験)	和田 英峰  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	ADL評価を模擬的に体験し、観察の視点を学ぶ。ADL遂行困難への作業療法上の治療的対応方法を学ぶ。				
到達目標	ADL観察の技術を修得し、ADL評価が可能となる				
テキスト・ 参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動学(ADL)、精神障がい者ケアマネジメントの進め方				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	ADLへの介入は作業療法にとって非常に大切な視点です。実践に結び付けられるよう積極的な参加を期待します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・基本動作観察① 寝返り	健常者とCVA片麻痺患者の寝返り動作の評価・介入		
	2	基本動作観察② 起き上がり	健常者とCVA片麻痺患者の起き上がり動作の評価・介入		
	3	基本動作観察③ 座位・立位	健常者とCVA片麻痺患者の座位・立位の評価・介入		
	4	基本動作観察④ 移乗	健常者とCVA片麻痺患者の移乗動作の評価・介入		
	5	基本動作観察⑤ 歩行・階段昇降	健常者とCVA片麻痺患者の歩行・階段昇降の評価・介入		
	6	基本動作観察⑥ W/C移動	健常者とCVA片麻痺患者のW/C移動の評価・介入		
	7	ADL観察の実際① 食事	健常者とCVA片麻痺患者の食事評価・介入①		
	8	ADL観察の実際② 食事	健常者とCVA片麻痺患者の食事評価・介入②		
	9	ADL観察の実際③ 整容	健常者とCVA片麻痺患者の整容評価・介入①		
	10	ADL観察の実際④ 整容	健常者とCVA片麻痺患者の整容評価・介入②		
	11	ADL観察の実際⑤ 更衣	健常者とCVA片麻痺患者の更衣評価・介入①		
	12	ADL観察の実際⑥ 更衣	健常者とCVA片麻痺患者の更衣評価・介入②		
	13	ADL観察の実際⑦ 排泄	健常者とCVA片麻痺患者の排泄評価・介入		
	14	ADL観察の実際⑧ 入浴	健常者とCVA片麻痺患者の入浴評価・介入		
15	ADL観察の実際⑨ 各種疾患のADL	パーキンソン病患者のADL評価・介入			

履修主題・履修内容	16	ADL観察の実際⑩ 各種疾患のADL	リウマチ患者のADL評価・介入
	17	ADL観察の実際⑪ 各種疾患のADL	呼吸器系疾患患者のADL評価・介入
	18	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通じた日常生活における困難性を分析する、(グループディスカッション)、グループディスカッション発表
	19	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通じた日常生活における困難性を分析する、(グループディスカッション)、グループディスカッション発表
	20	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通じた日常生活における困難性を分析する、(グループディスカッション)、グループディスカッション発表
	21	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通じた日常生活における困難性を分析する、(グループディスカッション)、グループディスカッション発表
	22	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通じた日常生活における困難性を分析する、(グループディスカッション)、グループディスカッション発表
	23	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通じた日常生活における困難性を分析する、(グループディスカッション)、グループディスカッション発表

